

実況中継「土曜講座」

第5号 2023年7月8日発行

市川学園7月1日の土曜講座 於 國枝記念国際ホール

篠田 謙一 先生

日本人のなりたち

国立科学博物館館長

篠田謙一先生のご紹介

- 1979年 京都大学理学部卒業
- 1979年 産業医科大学助手
- 1986年 佐賀医科大学助手
- 1994年 佐賀医科大学講師
- 1996年 佐賀医科大学助教授
- 2003年 国立科学博物館人類第一研究室室長
- 2007年 国立科学博物館人類研究部研究主幹
- 2010年 国立科学博物館人類史研究グループ長
- 2021年 国立科学博物館館長



主な講義内容の紹介

2023年度第3回目の土曜講座は、国立科学博物館館長の篠田謙一先生によるご講演でした。篠田先生のご専門は分子人類学で、古代人の骨にわずかに残るミトコンドリアのDNAを分析し、日本人の起源や人類の世界拡散の様子を研究されています。今回の講義では、アフリカを出た後の人類、縄文人や渡来系弥生人の起源、DNA解析の新たな展開などを、様々なデータや図表を交えながら分かりやすく説明していただきました。

質疑応答の時間も生徒の様々な質問に丁寧に答えていただき、非常に有意義な時間となりました。

受講レポートから

・ 中1の授業で歴史の観点から日本人を学んでいる一方で、今回の講座では生物学的な観点から日本人を学ぶことができ、2つの考え方の違いをより実感できたように思います。最後のほうで、「人類の進化は150年で神話から科学になった」という言葉を聞き、今このような研究がされている時代に生まれることができたことを幸せに思いました。
(中1女子)

・ 生物学や人類の歴史については今まで触れてこなかったもので、とても貴重な体験でした。DNAはどのようなものなのか、日本人の起源はどこのかということが分かりやすく説明されていて面白かったです。自分のDNAを調べて、自分の先祖がどこからやってきたのか、どのようなルートで日本まで来たのかなどを知りたいです。人類の由来を知ってすぐには役立たなくても、自分の好奇心を深くまで探究するのはとても素晴らしいことだと思いました。この講座を聞いて、生物学や人類の歴史に大きな興味を持つことができました。
(中1男子)

・ 聞いたことのない人種や生物などが私たちのDNAに大きく関わりを持っていてびっくりしました。縄文人のDNAデータの分析から分かったように、日本列島に住んでいた人だけでなく、その周辺の国や縄文時代後の渡来人や弥生人なども、同じようなDNAを持っていたということが興味深かったです。また、「ネアンデルタール人」と「コロナ」というように、今回の講座内容を現代に結びつけている点分かりやすかったです。
(中2女子)

・ 人類の歴史を1年で表すと、明治時代から現在までは1年に満たないことから、私たちの歴史は全然長くないのだと改めて感じられた。また、古代人の顔のパーツやどのように遺伝子が分布されているか



などが分かるDNAの最新技術にはとても驚いた。この講座を通歴史の研究が行われていることが分かり、人類史が身近なものに感じた。特にミトコンドリアは、人類拡散の系譜も分かるし、これを書けるのもミトコンドリアが呼吸とエネルギー変換の手助けをしているという点で偉大な物質だと思いました。また、2010年にデニソワ人が発見されたように、まだ知らない人種があるかもしれないことにロマンを感じました。
(高1女子)

・ タイトルに惹かれてこの講座を受講しました。ゲノム分析を用いて解説してくださり、縄文人のルーツからたどると全く知らない人種が出てきており、現代人とは遺伝子構成が全然違うことに驚きました。また、コロナが重症化する要因にネアンデルタール人の遺伝子が関わっているという話では、過去と現在がつながっている気がして面白かったです
(高2男子)

・ 人間のなりたちはとても複雑で、いろいろな経緯を経て現在にまで至ったことが分かった。現在とは全く違う過去に生きた私たちの先祖について、ここまで詳しく調べることができる研究者のすごさを実感した。過去の研究者は自分自身の考えを科学的根拠によって証明していった。自分も他人の言葉に流されず、自分の考えをしっかり持って生きたいと思った。そして、興味があることについて勉強し、生活に役立てられるようにしたい。DNAなどを用いて祖先について理解することが何の役に立つのか最初は分からなかったが、今回の講座を通して、過去を知ることでこれからの未来に役立てることができるのだと知った。
(高3女子)

